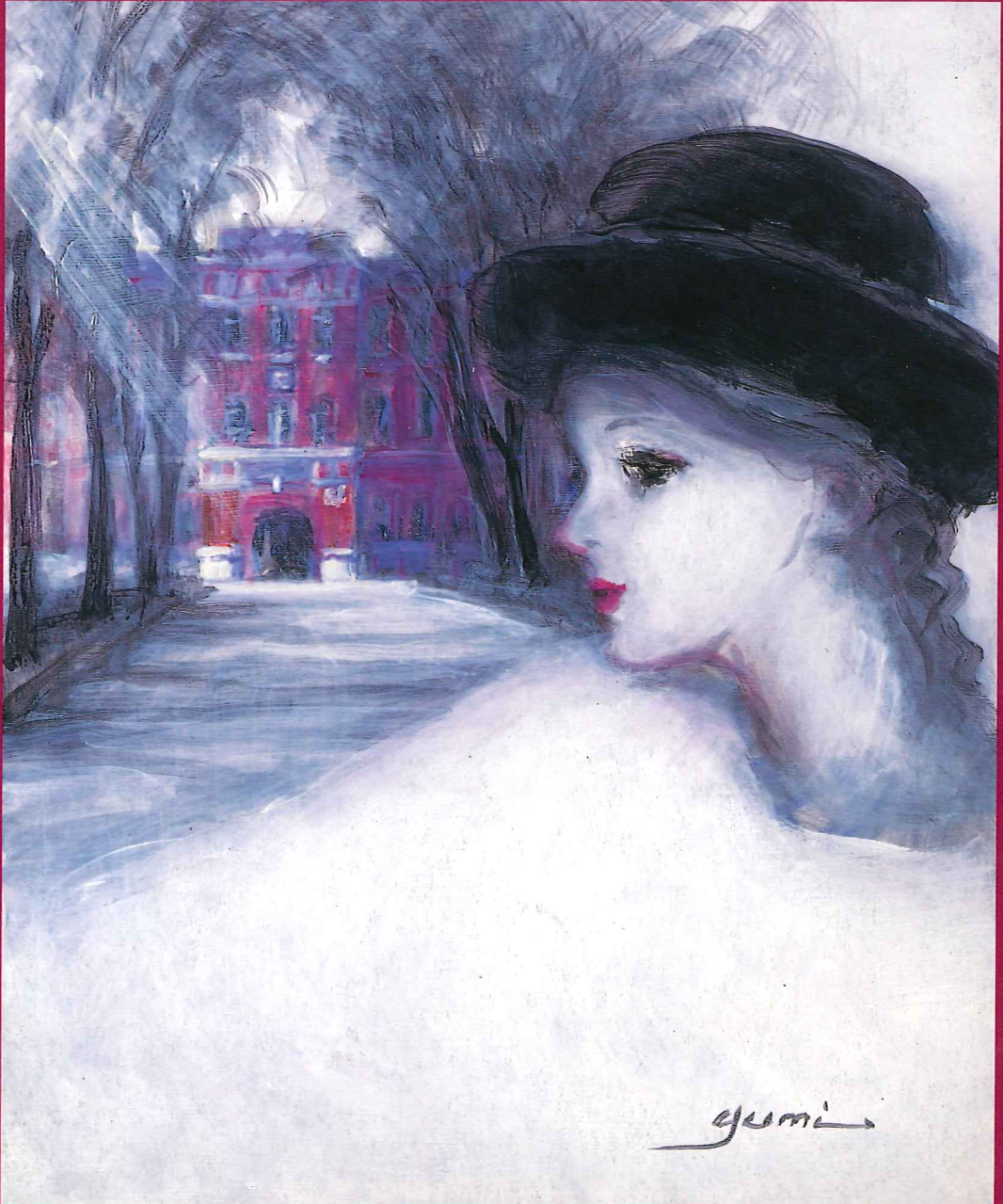


成蹊會誌

1996.1 No.82



成蹊会会長に就任して
成蹊会50年を顧みて

岩崎英二郎 …… 2
谷岡喜久藏 …… 3

特別寄稿

今後の金融機関経営の課題

宮本 保孝 …… 4

随想

現代とおりゃんせ物語

竹内 浩 …… 10

古稀の執念

山崎 英也 …… 12

全日本学生バドミントン選手権優勝

藤井千代子 …… 13

枯林忌まんじゅう記

坂井 康悦 …… 15

我がオーボエ人生

松本 攻 …… 17

ゆにふおーむ小史

尾崎 敏之 …… 19

木の話

長谷川健治 …… 20

牛乳あれこれ

塚田 正幸 …… 22

全日本OBヨット選手権優勝記

佐山 和義 …… 24

海外だより

無題

有馬 龍夫 …… 26

ニューヨークで思うこと

藤田 直久 …… 27

ウォーリー・与那嶺氏との再会

桑田 直 …… 29

シンガポールにて

稲垣 稔実 …… 30

ホンコンから見た日本

三科 繁行 …… 32

この人に聞く

小原 宏 …… 52

同窓のつどい

● 恩師を囲んで …… 34

星の子会 A K 会 渡辺一郎先生在職30周年お祝い会

羽深先生の古稀を祝う会 豊田淳一先生を囲む集い

栗原雄一先生を囲む会 霜山先生クラス会

● 学校・年次会のつどい …… 36

成蹊戦時疎開の会 高校卒業20周年

東京医科歯科大学成蹊会 蹊水会 蹊電会総会

● 体育会・文化会OB会 …… 39

準硬式野球部OB会 地理研OB旅の会

● 業界・企業同窓会 …… 41

日本火災成蹊会 鹿島建設成蹊会 戸田建設成蹊会

● 地域同窓会 …… 42

新潟成蹊会 群馬成蹊会 栃木成蹊会

茨城成蹊会 千葉支部総会 渋谷成蹊会

静岡県合同成蹊会 中国支部総会・岡山成蹊会

福岡成蹊会 熊本成蹊会

● 寮歌祭 …… 46

日本寮歌祭 信州寮歌祭 東海学士会寮歌祭

神戸寮歌祭

予告／9 四大学運動競技大会／23 表紙のことは／33

第35回謝恩顕彰会／48 成蹊学園寮使用料金改定／51

会員動静／53 物故／74 第3回成蹊会学術賞／75

成蹊学園の近況／77 アジア太平洋研究センター／83

学園史料館資料紹介／84 図書館蔵書紹介／86

成蹊小学校開校80周年記念事業／87 成蹊会報告／90 叙勲／92

表紙の題字は上條信山先生、絵は宮道弓子(高34年)

成蹊会会長 に就任して

岩崎英二郎



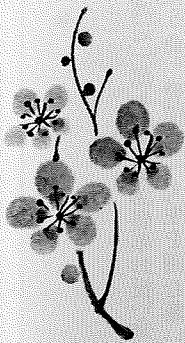
このたび、その任にあらざることは十分に承知しながら、非力非才をかえりみず、あえて成蹊会会長の重職を引き受けすることにいたしました。これまで成蹊会の発展に努力してこられた先輩の方々の献身的なお仕事ぶりを考えますと、なにか空恐ろしい思いもいたしますが、お引き受けした以上は

私なりに最善を尽くす覚悟はできておりますので、会員の皆様への御協力、御激励、とくにまた忌憚のない御叱正を、どうかよろしくお願い申し上げます。皆様もよく御存知のとおり、私たちの心から敬愛する岩崎喜久蔵前会長は、戦後の混乱期から今日にいたるまで実に半世紀の長きにわたって、全身全霊を捧げて（これはけつして単なる美辞麗句ではありません）成蹊会のために尽くしてこられました。戦後の成蹊会には、いわば岩崎さんの手作りの作品であったと申しても過言ではなく、成蹊会の常務理事として、何十年ものあいだ黙々として縁の下で力持ちの役目を果たしておられる岩崎さんのお姿を拝見しながら、私はよく、岩崎さんは成蹊精神を身をもって実践しておられるのだな、と思つたものです。会長の仕事は自分の任ではない、と固辞される岩崎さんが、ようやく重い腰を上げて会長に就任されたのは、つい一昨年のことでしたが、わずか二年足らずで、御病氣のため、辞任されることになってしまいました。実に残念なことですが、さいわい予後もきわめて御順調、着実に健康を回復されつつあるとのこと、これからは成蹊会の特別顧問として、御健康の許すかぎり、何かにつけて

ひ相談相手になっていただきたいと思つておりますが、それはともかく、岩崎前会長の今日までの多大の御功績に對して、会員の皆様とともに、ここにあらためて心からお礼を申し上げます。一口に成蹊会といいますが、その傘下には、池袋同窓会、小学校同窓会、やよい会、旧制高等学校同窓会、高等学校同窓会、また大学関係だけでも、政治経済学部同窓会、プレメ同窓会、経済学部同窓会、工学部同窓会、文学部同窓会、法学部同窓会など、多数の同窓会があり、それらすべてを合わせますと、会員総数5万余名の大所帯です。したがって、成蹊学園に在籍した年数の違いだけから考えても、会員それぞれが母校成蹊への思いは千差万別でしょうし、また成蹊会への期待も、無関心から過大な注文まで、さまざまなものがあるにちがひありません。当然のことだと思えます。若いころにはもっぱら未来に目を向け、年を取るにつれてしだいに過去を振り返るようになるという、人間の本性からの自然な成行きで、とかく同窓会というものは、古い世代の考え方が支配的になりがちです。私自身も旧制高等学校の出身で、とうに老人の仲間入りをしていいますが、さいわい理事会にはすべ

ての同窓会の代表の方々が参加しておられますし、各種の特別委員会には、若い世代の会員もそれぞれ活躍しておられます。今後、成蹊会の事業のさらなる拡充と活性化を図るためにも、それらの方々からの積極的な発言を大いに期待していますし、同時に、役員会や特別委員会の世代交代を、なおいっそう促進したいと考えています。かつて永井邦夫元会長が、リリーフピッチャーという比喩を用いられたことがありますが、私としても、世代交代のリリーフピッチャーのつもりで、会長の職をお引き受けしました。さいわい松浦克司さん、根岸孝彰さんという適役の堅い常務理事を得て、守備陣は万全ですから、リリーフピッチャーとしては当面、「自分たち卒業生は成蹊学園のために何をしておられるか」ということだけを念頭に置いて、ボールを投げるつもりです。

慶応義塾大学名誉教授(旧高・17年)



成蹊会 50年を 顧みて

谷岡喜久蔵

卒業生のみならずには永い間お世話になり有難うございました。

さて、私儀このたび成蹊会会長を退任いたしました。顧みますれば、先の大戦このかた五十年近くを成蹊会事務局長・常務理事として、微力を尽くしたつもりですが、さしたるお役にも立たず内心忸怩たるものがございます。



最近の二年間は会長職にありながら、健康を害してその職責も全うすることができず申し訳なく思つております。

後任の会長には私が日頃から尊敬しております岩崎英二郎氏(一九四二年旧制高校15回卒・元東京大学教授・慶応義塾大学名誉教授・ゲルマン語学)が理事会により選任されましたので、安心してバトンを渡すことができ、成蹊会の前途は洋々たるものがございます。ご承知のとおり、成蹊会は成蹊学園創立(明治四十五年・一九一二年)以来の卒業生団体で、成蹊学園に学んだものが、卒業後も互いに協力しあつて社会のために貢献し、また、母校の発展を後援するために設立されたものです。

従つて、成蹊会の存在意義は「会員相互の親睦」と「母校の後援」にあると思ひます。特に昭和三十年(一九五五年)には社団法人として認可を受け、公益増進のために、一、育英奨学 二、学術・教育助成 三、国際交流 四、スポーツ振興の諸事業を行い、学園教職員・学生・生徒及び運動部・文化部団体・個人を対象に積極的に後援をしております。

成蹊会発足の淵源は昭和十一年(一九三六年)創立者中村春一先生の十三

回忌に当り、当時の卒業生の発意と據金により、前庭に胸像が建立され、これを機に従来各自バラバラに運営されていた同窓会が大団結いたしました。この年、私は旧制高校二年在学中で、厳肅な式典と除幕式に生徒として参列した記憶があります。

成蹊会創立後の約十年間は、戦前・中・後の混乱期で、同窓会活動も思うに任せず、記録的なものは余り保存されておられません。

戦後数年を経て成蹊会活動再会の機運が高まり、私は先輩の強い勧めもあつて事務局を担当することになりました。成蹊大学第一回卒業生(政治経済学部)は昭和二十七年(一九五二年)です。未だ成蹊会のメンバーではなく当時の名簿には当然ながら記載されておられません。その成蹊会会員も現在は五万名を超える大世帯となりましたが、その頃は三千名位ではなかったかと思われまふ。

創立者中村春一先生は処世七則のなかに「後輩の続き来ることを思へ」との教えがありますが、八十三年前(一九一二年)小学園から出発した母校成蹊も、いまや大学園となりつつあります。従つて成蹊会も池袋時代の諸学校、

現在の小学校から大学四学部まで十一同窓会を数え、時代・年齢・教育程度は区々ですが、同じ成蹊に学んだ同志として一致団結して、前記の「二大目的」達成のために協力して頂きたいものです。

これは単に成蹊会の発展のみならず、学園にとつても力強く頼もしい存在となることでしょう。世界の一流私立校の隆替は、その卒業生の社会的貢献と母校に對する後援によるといわれ、我々も是非そうでありたいと念願しております。幸い、卒業生の年齢構成は大学卒業生を始め比較的若い世代が多く、将来このエネルギーに期待したいものです。

昭和六十三年には成蹊学園史料館が竣工されました。成蹊会もこの建物の中に入っております。史料館は学園にとつて貴重な資料が收藏され、館内の展示室には常時展示物と各種行事に合せて特別展示も行われております。卒業生にとつては思い出の歴史館でもありますので、学園へお越しの折は是非お立ち寄り下さい。

思い出すままに拙文を成蹊会誌に掲載させていただきます。御礼を兼ねて退任のご挨拶といたします。

前成蹊会会長(旧高・13年)

成蹊会 50 年を 顧みて

谷岡喜久蔵



卒業生のみなさまには永い間お世話になり有難うございました。

さて、私儀このたび成蹊会会長を退任いたしました。顧みますれば、先の大戦このかた五十年近くを成蹊会事務局長・常務理事として、微力を尽くしたつもりですが、さしたるお役にも立たず内心忸怩たるものがございます。

最近の二年間は会長職にありながら、健康を害してその職責も全うすることができず申し訳なく思っております。

後任の会長には私が日頃から尊敬しております岩崎英二郎氏（一九四二年旧制高校15回卒・元東京大学教授・慶応義塾大学名誉教授・ゲルマン語学）が理事会により選任されましたので、安心してバトンを渡すことができ、成蹊会の前途は洋々たるものがございます。

ご承知のとおり、成蹊会は成蹊学園創立（明治四十五年・一九一二年）以来の卒業生団体で、成蹊学園に学んだものが、卒業後も互いに協力しあつて社会のために貢献し、また、母校の発展を後援するために設立されたものです。

従つて、成蹊会の存在意義は「會員相互の親睦」と「母校の後援」にあると思います。特に昭和三十年（一九五五年）には社団法人として認可を受け、公益増進のために、一、育英奨学 二、學術・教育助成 三、国際交流 四、スポーツ振興の諸事業を行い、学園教職員・学生・生徒及び運動部・文化部団体・個人を対象に積極的に後援をしております。

成蹊会発足の淵源は昭和十一年（一九三六年）創立者中村春二先生の十三

回忌に当り、当時の卒業生の発意と據金により、前庭に胸像が建立され、これを機に従来各自バラバラに運営されていた同窓会が大同団結いたしました。

この年、私は旧制高校二年在学中で、厳肅な式典と除幕式に生徒として参列した記憶があります。

成蹊会創立後の約十年間は、戦前・中・後の混乱期で、同窓会活動も思うに任せず、記録的なものは余り保存されておりません。

戦後数年を経て成蹊会活動再会の機運が高まり、私は先輩の強い勧めもあつて事務局を担当することになりました。

成蹊大学第一回卒業生（政治経済学部）は昭和二十七年（一九五二年）です。未だ成蹊会のメンバーではなく当時の名簿には当然ながら記載されておられません。その成蹊会會員も現在は五万名を超える大世帯となりましたが、その頃は三千名位ではなかったかと思われれます。

創立者中村春二先生は処世七則のなかに「後輩の続き来ることを思へ」との教えがありますが、八十三年前（一九一二年）小学園から出発した母校成蹊も、いまや大学園となりつつあります。従つて成蹊会も池袋時代の諸学校、

現在の小学校から大学四学部まで十一同窓会を数え、時代・年齢・教育程度は区々ですが、同じ成蹊に学んだ同志として一致団結して、前記の「二大目的」達成のために協力して頂きたいものです。

これは単に成蹊会の発展のみならず、学園にとつても力強く頼もしい存在となることでしょう。世界の一流私立校の隆替は、その卒業生の社会的貢献と母校に対する後援によるといわれ、我々も是非そうでありたいと念願しております。幸い、卒業生の年齢構成は大学卒業生を始め比較的若い世代が多く、将来このエネルギーに期待したいものです。

昭和六十三年には成蹊学園史料館が竣工されました。成蹊会もこの建物の中に入っております。史料館は学園にとつて貴重な資料が収蔵され、館内の展示室には常時展示物と各種行事に合せて特別展示も行われております。卒業生にとつては思い出の歴史館でもありますので、学園へお越しの折は是非お立ち寄り下さい。

思い出すままに拙文を成蹊会誌に掲載させていただきます、御礼を兼ねて退任のご挨拶いたします。

前成蹊会会長（旧高・13年）